

# 史跡 旧二条離宮（二条城）調査公開資料

平成 21 年（2009 年）11 月 16 日  
元離宮二条城事務所・財団法人京都市埋蔵文化財研究所

## 遺跡の概要

現在の二条城は、徳川家康により慶長 7 年（1602）から築城が開始されました。その頃は二の丸御殿の位置を中心とする方形でしたが、徳川家光により寛永元年（1624）から西側への拡張や御殿の築造などの大規模な改修がなされ、現在のような二重の堀を備えた東西約 530m・南北約 410mにおよぶ城域をもつようになりました。寛永 3 年（1626）には後水尾天皇の行幸が行われています。また、慶応 3 年（1867）には徳川慶喜が二の丸御殿で大政奉還の諮問を行ったことでも知られています。

## 調査の経過

今回の調査は、防災工事に先だって二条城内南部「桜の園」で実施しています。調査地周辺の江戸時代の絵図には、後水尾天皇の行幸の際に、天皇・皇后・皇太后たちの御殿が築造された様子が描かれており、今回の調査地は御殿西側の台所に付属する部分にあたります。

調査は江戸時代後期・江戸時代中期・江戸時代前期に分けて行いました。

## 江戸時代後期

こぶし大の石を詰めた方形の穴、瓦を棄てた穴などが見つかりました。

## 江戸時代中期

石鳥居の台石、建物の礎石、方形の石組、石を詰めた溝、瓦や陶磁器を棄てた大規模な穴などが見つかりました。この頃には調査地南西隅あたりに稲荷社があり、石鳥居はその参道にあったと考えられます。文政地震（1830）で石鳥居が倒壊したという記録があります。

## 江戸時代前期

建物、溝、石列、柱穴、土坑、整地層などが見つかりました。建物は柱を立てた礎石、礎石を抜取った穴、礎石を据えた根石が東西・南北方向に並びます。溝は逆「コ」字形で建物の西側を囲みます。両側に石を並べる構造であったようです。石列は建物の基礎と考えられ大小の石材を東西方向に並べています。整地層は東側ほど分厚くなります。

これらの遺構は御殿の絵図と合致するところが多く、御殿西側の台所に付属する建物及び関連施設と考えられます。

## 出土した遺物

江戸時代の遺物が大部分を占め、多量の瓦や土器・陶磁器、金属製品が出土しています。瓦の多くは御殿の屋根に葺かれていたものです。中には金箔を貼った瓦もあります。金属製品には建具の引手などがあります。

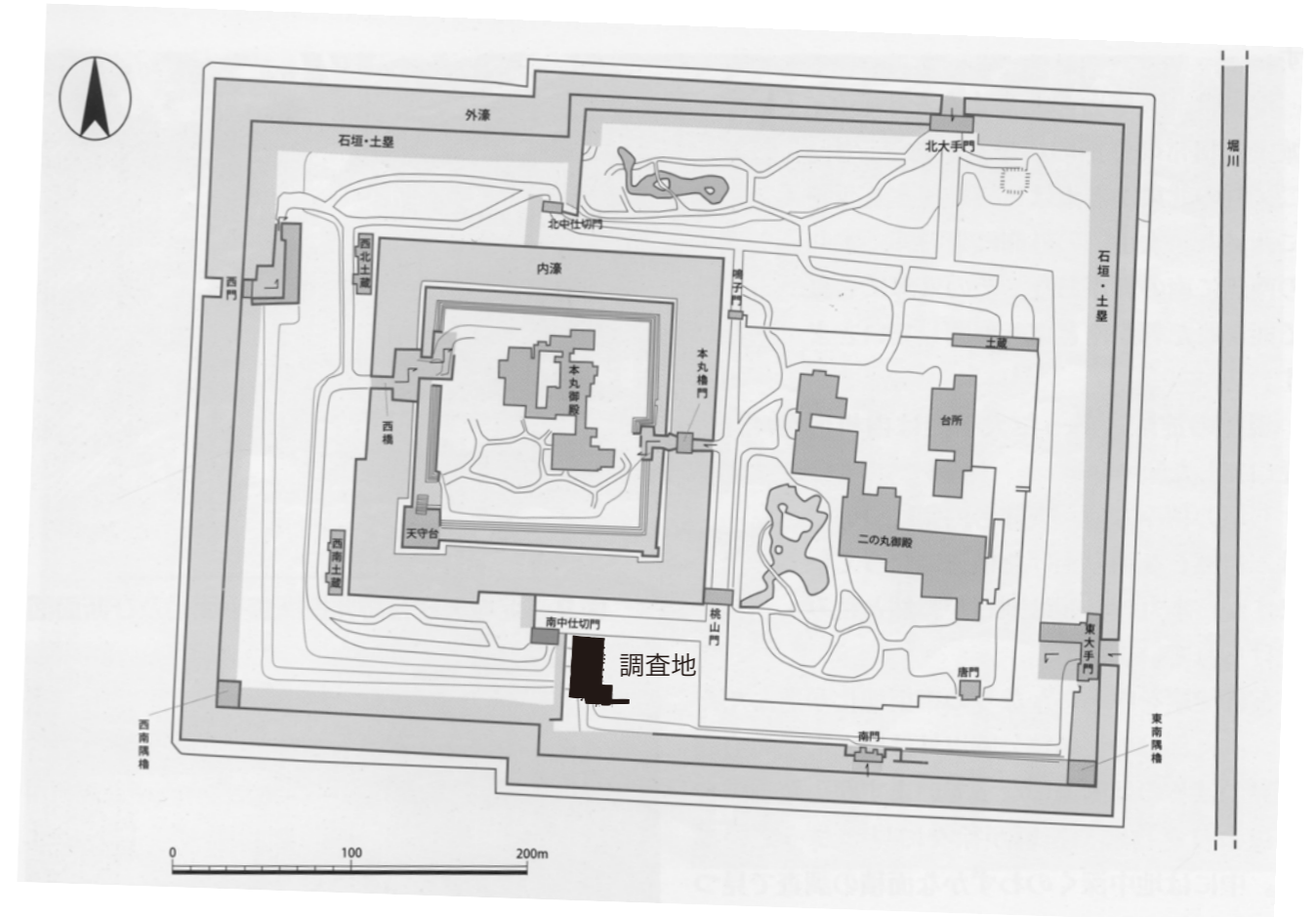


図 1 調査位置図



写真 1 調査地全景（北より）

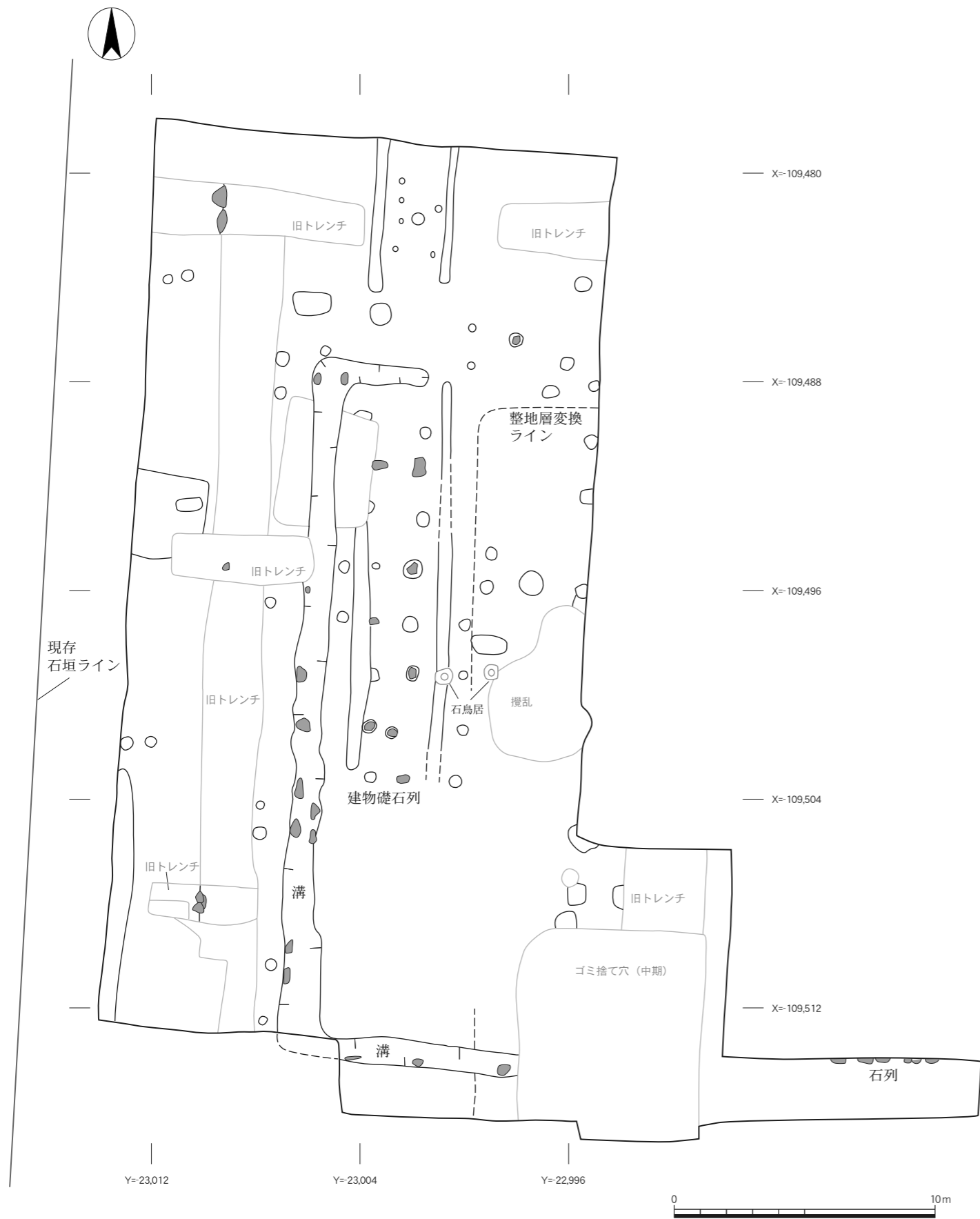


図2 桜の園 江戸時代前期遺構略測図 (1:200)

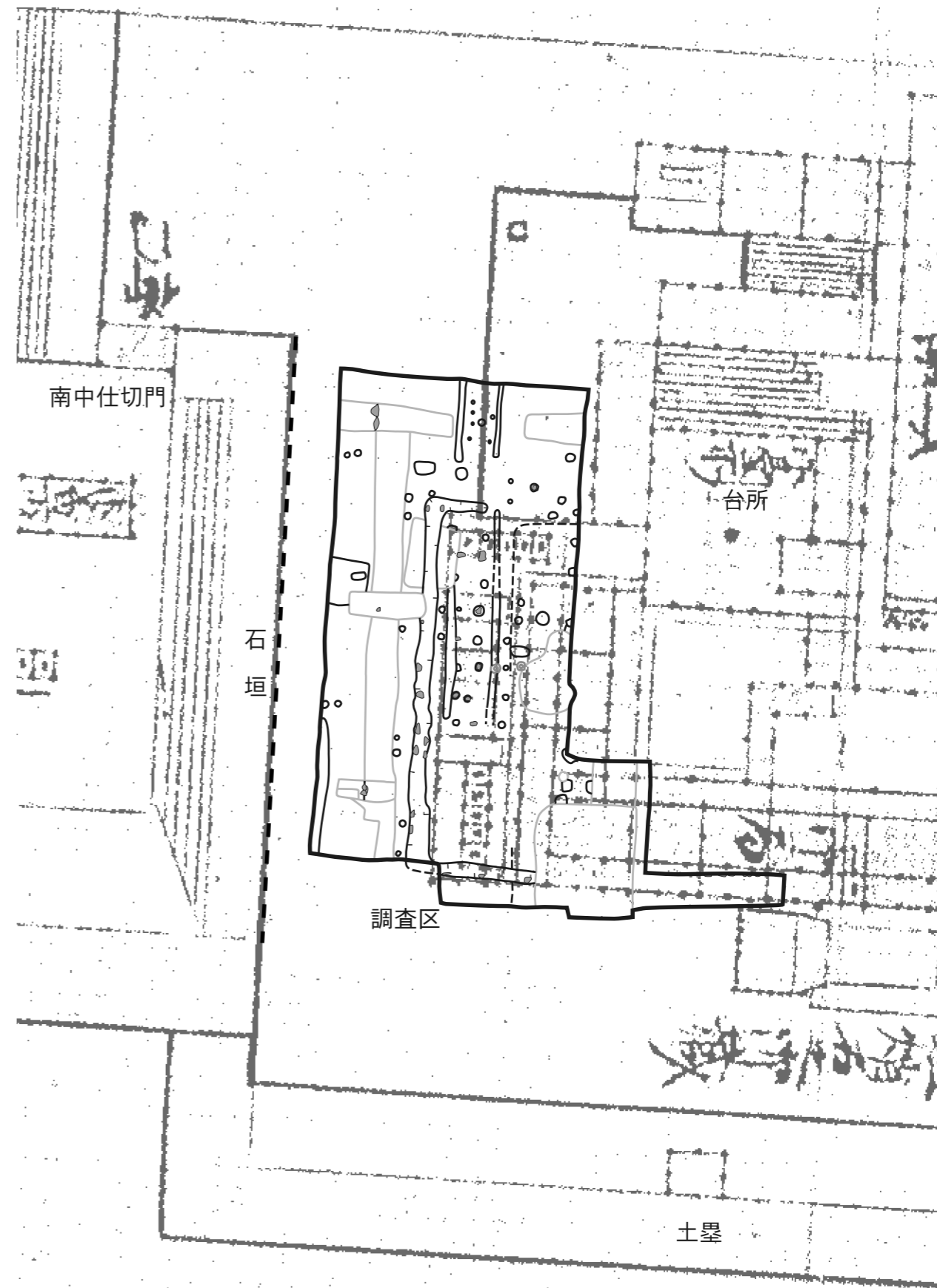


図3 検出遺構と絵図

「行幸御殿並古御建物御取解不相成以前二条御城中絵図」 中井正知家蔵に加筆